えがお！松本だより

自ら、そして仲間と、
未来をたくましく生きる力を身につける子

福井市松本小学校　学校だより
令和６年１０月４日　第１０号
TEL　22-8813　　FAX　22-8892
Mail　matsu-e@fukui-city.ed.jp

松本っ子の学力　＆　出題内容から見える「どんな力が求められているか」
「全国学力・学習状況調査(6年生)」結果より

６年生を対象として４月に実施した、見出しの調査の結果をお知らせします。

＜６年生　全国学力・学習状況調査より＞
(数字は平均正答率)

	国語	算数
松本小学校	７７	７２
福井県(公立)	７１	６６
全国(公立)	６７．２	６２．５

この表から分かるように、各教科平均は、本校6年生が、全国的に見ても学力が上位である福井県の平均を上回っています。素晴らしい結果が出ていますね。松本小学校では、これらの内容を分析し、今後どんな授業にしていくとよいか考えました。
問題の一部も合わせてお伝えします。

【国語の問題より】

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、１年生から６年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、３色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という２年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という５年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

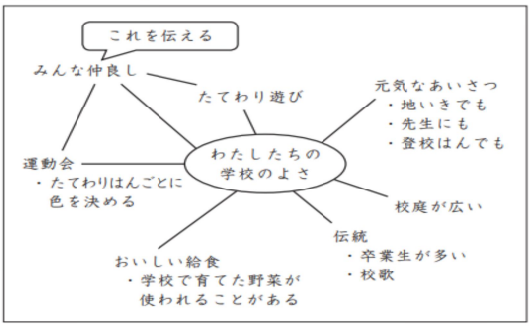
「たてわり遊び」は、毎月１回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、６年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
６年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
　ドッジボール　上級生は遠くからボールをなげる
下級生に聞いたこと
○１年生　お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○３年生　好きな遊びや新しい友達が増えた
○４年生　みんなが楽しそうでうれしかった

二　高山さんは、次の【高山さんの文章】の［　　］に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、［　　］に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも１年生から６年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

高山さん

2　高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

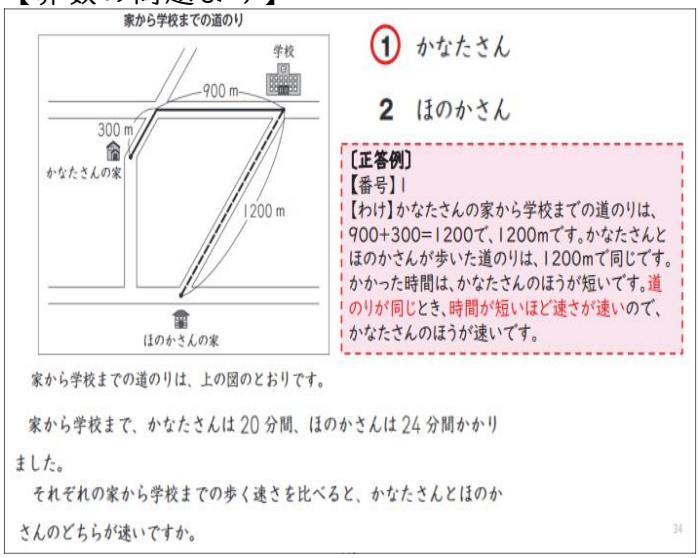
《国語：聞き取りメモの工夫　４年生→》

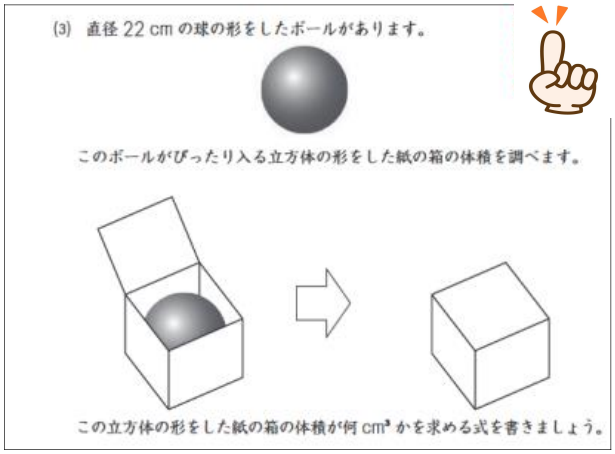
学校生活の場面に即した問題であり、本校では今後もこのような縦割り活動等にどんどん取り組ませ、経験から自信をもって自分の考えが引き出せるようにしていきます。また「国語等の教科でで学んだ内容が、総合的な学習や学校行事での活動(つまりは実生活)に生かされるのだ」ということを実感できるように、教育活動を仕組んでいきたいです。

つい先日行った松本フェスティバルの係決め話し合いでも、国語などでつけた力を発揮している場面がありました。教科等でつけた力がフェスにつながり、フェスでつけた力が教科等の学びにつながっていくのですね。

《松フェスの係決め　6年生中心に全校で→》

【算数の問題より】





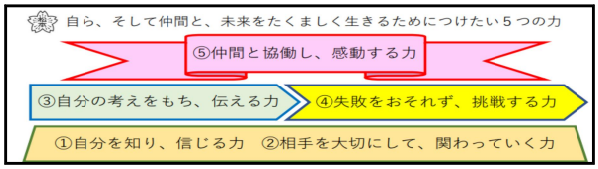
「立方体の一辺と球の直径は同じだ」ということに気づくと、立式できますね。

問題をよく読んで、算数の語を使って自分の言葉で表現することが必要です。そこで、計算して答えを求めるだけでなく、自分の言葉で説明したり書いて文章で伝えたりするように取り組んでいきます。また、具体物を使って、視覚的に捉えたり、体験を通して理解したりする活動を取り入れます。

【質問調査より】　《算数：はこのかたち　1年生↑》

学校や家での勉強や生活の様子についてたずねた調査（質問調査）についての結果もお知らせします。どの項目も高い数値でしたが、特に次に示す項目は、スクールプランの5つの力にもつながる項目です。

◎自分にはよいところがある。88.3%
◎人が困ったときに助ける。　100%
◎いじめは絶対にいけない。　98.5%

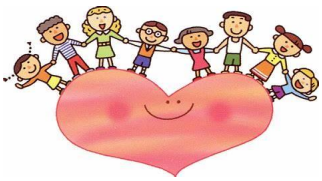


また、授業では「話し合う活動を通じて考えを深める」（95.6%）ことや、「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組む」（92.6%）「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら取り組む」（100%）ことも、数値のように「できた」と答える児童が多かったです。ICT機器の活用についても高い数値でした。これらのことが、授業の理解度、挑戦心・自己有用感・幸福感などにつながっていくと考えます。　《ICT活用　2年生→》

これからも学校生活で「自分を知り、信じる力」をたくわえ、「相手を大切にして関わって」いってほしいと願います。私たち教職員は、5つの力がつく場面を保証したり、できたことを認めて励ましたりしていきます。

＜校長より＞　《なかよし集会　3年生・5年生→》

上記の内容について、本校の研究部や国語・算数主任が中心となって結果の分析を行いました。その上で、全教員での全体研究会を行い、分析結果から今後の具体的な取組を考える時間としました。

私たち教員の使命として「指導と評価の一体化」ということがあります。指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって今後の指導を改善し、新しい指導の成果を再度評価するというように、評価を次の私たちの指導に生かすことをいいます。

1学期終業式の日にお渡しする通知表「かがやき」も、1人1人のお子様の評価を次の私たち自身の指導に役立てていくべく、取り組んで参ります。